



都市緑化研究会がガーデンで採集した花木を使い、クラフト活動にて制作したものの。ポスターやしおりに加え、齋藤さんと田口さんらが入会してからはアクセサリ作りも始まりました。

んが参加します。田口さんはその時のことを振り返ります。「正直、都市緑化研究会のことは知らなかったのですが、しおり作りが楽しくて没頭してしまいました。すると、作ったしおりを田村さんたちが褒めてくれて、都市緑化研究会の活動にも興味を持って、その場で入会を申し込みました」。それを知った中村さんは「まさか!」と、本当に驚いたとか。田口さんはガーデンの管理にも参加し、「それまで土や植物に触れる機会は少なく、新鮮な経験で、体も動かせてとても楽しかった! お花の知識が増えたことも嬉しかったです」と、都市緑化研究会の活動に夢中になったそうです。



秋にガーデンで行われているコキア祭の様子。都市緑化研究会ではホウキギ(掃木)と呼ばれるコキアを使い、鮮やかなほうきを制作しました。



そして田口さんに誘われる形で、彼女と同じ学科の齋藤さんも参加。「植物に触れる機会に興味があって、ちょっとした工作も好き。田口さんから都市緑化研究会の楽しさを聞いていたので、入会することにしました」(齋藤さん)。その後さらに輪が広がり、田口さんと齋藤さんの友人たちが続々と入会。現在では11人となり、ガーデンの管理にも余裕が生まれてきました。2025年4月に運営補佐を行ったネモフィラ祭では、地域の方々と共に育てた1000株以上の青いネモフィラが咲き誇り、多くの来場者で大賑わい。またクラフト制作にもいい影響が生まれ、花を使ったイヤリングやヘアゴムなど、アクセサリなども手掛けるようになります。

こうした活動の活性化が実を結んだのが、2025年の横浜祭です。前年以上に、キンモクセイをはじめとする多様な花を使ったしおり作りは大好評。アクセサリ販売もお母さんと子どもなど親子に大人気となりました。そして2025年のガーデン管理をはじめ、盛況に湧いたネモフィラ祭の運営補佐、地域のお祭りへのクラフト作品出店といった、普段の活動も評価され

て見事に本学後援会特別賞を獲得! 出展2団体のみに贈られる栄誉を受け、中村さんは感慨深いものがあつたと語ります。「1年前まではたった二人で、義務感だけでやってたようなものでした。それが2025年は会員が急増して、部室も和気あいあいとなり、後援会特別賞もいただけるなんて。今年は嬉しいことばかりで、今までの活動が報われた気がしました」。

学業の研究活動が忙しくなるため中村さんは会長を引退し、田口さんが会長を引き継ぎます。中村さんによると、「田口さんは他の部員と積極的にコミュニケーションをとり、地域の方々にも好印象で、会長にふさわしい人物です。齋藤さんも交友関係が広くて、他の団体とも交流があり、クラフト商品の改善案も目を見張るものがあります。バトンを渡せる体制は整いました」と、表情は晴れやかです。後を継ぐ二人は、「都市緑化研究会としては、2027年に横浜で開催される国際園芸博覧会に向けた取り組みに、力を入れていきたい」「自然に触れる機会が減り、学業や仕事に追われて忙しい現代だからこそ、自然の豊かさを体感できる場を多く作っていききたい。そんな体験を通じて会員が増えてくれれば」と、さらなる活性化を展望。2025年の勢いそのまま、今後のさらなる飛躍が期待されます。皆さまも機会があれば、早瀬川沿いの散策や地域のイベント、横浜祭を通じて、彼らの素敵なおガーデン作りやクラフト作品に、ぜひ目を留めてみてください。

ネモフィラ祭など、地域のイベントでも押し花を使ったクラフト作品を販売しています。



2025年の横浜祭では本学後援会特別賞を獲得し、賞状やクラフト作品を手に記念撮影。

